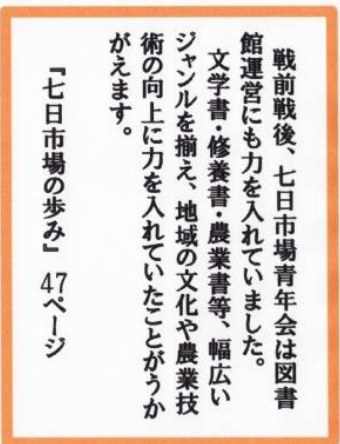
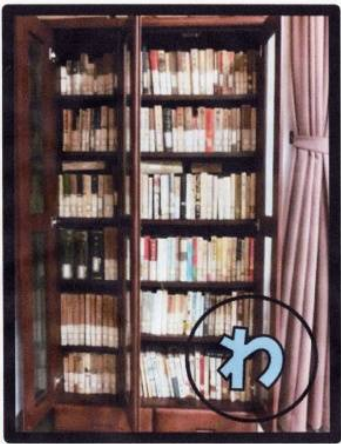
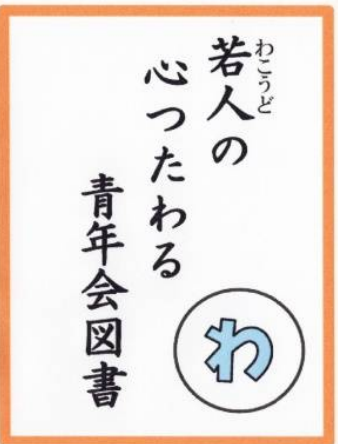


「七日市場の歴史（第六十四回）」

かるたを手に地域へ

曾根原 孝和



【左から：解説文（絵札の裏面）・絵札・読み札】

協働の成果 「七日市場かるた」は、「七日市場の歴史」（第六十回）に記しましたように、地区の力が結集してできたものです。令和5年に学習会を開いてから、3年かけて読み札と絵札を決め作成されました。推進は、公民館と「七日市場の歴史を学ぶ会」（以後「歴史の会」）で、両者の協働事業の成果です。公民館は3役と文化部が関り、「歴史の会」は役員が参加してきました。

楽しいかるた大会 令和7年11月16日、かるたが完成してよいよ大会が開かれることになりました。ただ、初めてのことであり、近隣でもあまり開いていないなどから、どう大会を進めるかが課題になりました。公民館、「歴史の会」の担当者は、近県の様子も含めて案を立てて何回も検討してきました。

当日、コミュニティセンターの1階和室には、児童や関係者など約50人が参加して盛会でした。児童の「はい、ありました」「おしかった」の声が飛び合うのを聞いているだけでも楽しいことでした。

かるたを活かそう 「七日市場かるた」の特色は、地区の自然や歴史、文化、人物、石仏などが登場することです。そして、もう一つは、絵札の裏に、令和4年に「歴史の会」が発刊した『七日市場の歩み』との関係の解説文が付き、ページが記されていることです。ですから、かるたに取り上げられた事物は、七日市場のどこにあるかが分かりやすいです。絵札を手に事物に触れ、より深くすることができます。

家庭でも時々かるたを話題にしてください。時にはかるた取りなどもしただき、興味が出た事物の場所などを、子どもさんと探すことに進めばうれしいことです。